

ベンチャー精神で医療に変革を

患者向けサービス続々と展開

30歳でベンチャー企業を立ち上げた薬剤師がいる。服薬治療をインターネットで支援する「ミナカラ」を2013年に創立した代表取締役薬剤師の喜納信也さんだ。薬に関する疑問をインターネット上で薬剤師に相談できる「薬剤師Q & A サービス」からスタートし、薬に関する有益な情報を発信する「薬局マガジン」や処方箋を患者の自宅に配送する「お薬宅配サービス」など、事業の幅を拡大させており、「ミナカラ薬局」として調剤薬局の店舗も保有する。「患者さんの医療体験を大きく変えることで、社会の変革を起こしたい」と大きな展望を語る喜納さん。「起業したい薬学生がいれば、いつでも相談に乗りますよ」と次世代にもエールを送る。そんな喜納さんの溢れ出るベンチャースピリッツに迫った。

IT企業と薬局勤務
経験生かし起業

北里大学薬学部で在学していた喜納さん。ベンチャーへの興味が沸いたのは大学3年の就職活動の時期。先輩に誘われたアルバイト先がきっかけだった。先輩は同じ北里大学理学研究科の大学院生で、喜納さんと同じ時期に就職活動をしていたが、早い段階でデジタルコンテンツ制作を手がけるテクノロジーベンチャー企業の内定を得て、卒業前から働き始めていた。喜納さんも就職活動の傍ら、追いかけるように先輩の働く企業でアルバイトをすることになったが、そのとき斬新な社風に衝撃を受けたという。「社長の考え方や会社全体が面白くて、『ベンチャーで働きたい』と思うようになりました」と当時を振り返る。

就職活動では、もともと医療に関わることを夢見

て薬学部に入學したこともあり、一般消費者向けの医療系ベンチャー企業を探していた。その条件は、「自分が成長できそうな、わくわくする会社」。だが、そのような会社はなかなか見つからなかった。調剤薬局や製薬会社のMR職の内定も数社から受けていたが、結局は辞退し、最終的に医薬品とは全く関係のないITベンチャーへの就職を決意した。「医療系ではないですが、一番わくわくした会社を選んだ結果です。その時はベンチャーに入って社会を変えたいという思いが強かったですね」と心境を語る。

ただ、薬学部への入学は、両親や親戚のサポートがあってこそ実現できた。「薬剤師の資格を取らないまま卒業なんて親不孝ですよ。国家試験という目先の成果さえ出せない人が、大きな夢など描けないと思いました。薬剤師免許は、両親にプレゼント

ミナカラ代表取締役薬剤師
喜納 信也さん

するつもりで頑張りました」と国試も無事に突破。喜納さんの激動の社会人生活がスタートした。

就職先は、企業向けに業務の効率化を図るためのシステム導入を提案するITベンチャーだ。面接時に「3年以内で
(12ページへ続く)

株式会社プチファーマシスト

関西圏を中心に全国へオレンジ・元気薬局を展開

初年度年収 **450～550万** 希望エリアでの勤務OK! 働き方次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します新卒生限定 **10泊12日**
ハワイ研修実施!

インターンシップ参加者募集

オレンジ薬局

検索

薬剤師
国家試験
対策.com薬剤師を目指す薬学生のための
国家試験対策支援サイトです

ご登録・ご利用完全無料

be89314

検索